

競技注意事項

1. 競技規則

本大会は2024年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。なお、TR4.4（参加の拒否）、TR8.4/8.5（現場での抗議）は適用しない。

2. 競技者案内所（T I C）

競技者案内所（T I C）を補助競技場第1ゲート付近（本部横）に設置し、次の業務を行う。

- 各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- プログラム販売（1冊500円）。
- 競技に持ち込んで使用するやりの受付と返却。

3. 受付

- 競技者受付は1日目：8時／2日目：7時30分からT I Cにて行う。
- 受付の際には、プログラムと一般競技者にはアスリートビブスを配布する。
- プログラムの記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）については、プログラム訂正用紙（T I Cで受け取る）を提出する。

4. 招集

- 本競技会では、100mスタート後方ゲートを出たところにある倉庫内で招集を行う。
- 各種目の招集開始時刻ならびに招集完了時刻は、競技日程に記載の通りとする。招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス、競技時に使用するシューズ、商標等のチェックをする。
- 代理人による招集は認めない。
- 競技場所への入場は第4ゲート（100mスタート地点後方）または第1ゲート（ゴール付近）とし、本部前（ホームストレート）は通行禁止とします。
- トラックの横断は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行い、細心の注意を払うこと。また、出場する選手以外は競技場に入らない。
- 混成競技者は、1日目と2日目ともに混成競技者控室前で下記時刻に、混成競技係が行う。

種目	招集及び集合開始時刻	招集及び集合完了時刻
トラック競技	競技開始予定時刻の30分前	同20分前
フィールド競技	競技開始予定時刻の40分前	同30分前

5. アスリートビブス

- 中学生及び高校生はそれぞれの登録番号のアスリートビブスを、大学生及び一般の競技者は主催者が用意したものを、そのままの大きさを胸・背部に固定すること。ただし、跳躍種目の競技者については、どちらか一方でよい。（TR5.7/5.8/5.9）

6. 競技方法

- トラック競技
 - レーン順はプログラム記載通りとする。
 - 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- フィールド競技
 - 試技順はプログラム記載通りとする。
 - フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
 - 跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカートを2個まで置くことができる。ただし、走高跳は競技者が準備したマーカートを助走路内に置くこととする。
 - 砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカートを1つだけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
 - 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更することもある。

種目	練習の高さ	1	2	3	4	5	6	
十種走高跳	任意の高さ	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	・・・以後3cmずつ
十種棒高跳	任意の高さ	2m40	2m60	2m80	3m00	3m20	3m30	・・・以後10cmずつ
七種走高跳	任意の高さ	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	・・・以後3cmずつ

競技注意事項

⑥十種競技のやり投の開始時刻は競技日程を基本とするが、棒高跳が終了した競技者でグループ編成し、時間差をつけて開始する場合がある。開始時刻は、各競技者の棒高跳終了時に連絡する。

⑦投てき練習は招集完了後、競技場内で行う。練習を行う場合は審判の指示に従って行うこと。

(3) 混成競技の選手控え所

①競技者控室は、100mスタート後方倉庫に用意し、競技者のみ入場を許可する。

②監督・コーチ等チーム関係者は、競技者控室および競技場内への立ち入りは出来ない。コーチング等を受ける場合は、混成競技係の許可を得て、選手が移動する。

③貴重品は各自で保管すること。万一の事故があっても主催者は責任を負わない。また、ごみの後始末は各自で行うこと。

(4) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから30分以内に、その種目に出場した競技者自身または代理人がTICまで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、ジュリーに上訴することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金(1万円)を添え、TICまで申し出ること。

(5) 助力

①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。(コーチング、トイレ等)

②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。

③コーチングボックスについては以下のようにする。

・Aゾーンで行う走高跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投については、Aゾーン外側の芝生にコーチングボックスを設置する。

・棒高跳においては、Bゾーン内(またはBゾーン外側)にコーチングボックスを設置する。

・それ以外のコーチングについては、競技場区域外で行う。

④その際、撮影した機器を、提供する者のすぐ近く的位置で競技者が手に取って操作することは助力にはならないが、映像確認後にコーチ等に再生機器等を返さず、競技場所等へ持ち込む場合は助力とみなす。

7. 表彰

長野県選手権混成競技の表彰は、長野陸上競技協会登録競技者で各種目の最上位者に長野県選手権章、および各種目8位までの入賞者に、賞状を授与する。

8. その他

(1)競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポール、やり投用やりは、個人所有のものを使用できる。やりの持ち込みについては、招集完了時刻の1時間前までにTICに持参し、返却もTICで行う。やりの持ち込み希望者は、招集完了時刻の1時間前までにTICに持参し検査を受けること。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。なお、競技終了後にTICで返却する。(TR32.2[国内])。

(2)スパイクピンの長さは9mm以内とし、走高跳・やり投は12mm以内とする。

(3)競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。

(4)陸上競技場の周辺は、公園である。一般の来園者、マレットゴルフの方などがあるので、ウォーミングアップの際、注意すること(ウォーミングアップの場が限られている)。

(5)補助競技場のテントエリア(トラック東側および西側)以外の場所でのテント設営は禁止とする。(林の中、マレットゴルフコースなどにテントなどを設置しない)

(6)長さの跳躍(走幅跳、三段跳)は、競技場南側のピットを予定している。風向きにより跳躍場所を決定するので、走路の延長線上には、テントを設置しないこと。

(7)新競技場建設のため、塀などがある。練習、移動などの際、気をつけること。

(8)トイレは、サブトラックの南側・体育館内・体育館の駐車場に常設されているものが使用可能である。